あとがき

紀の古墳が多い」とか「前方後円墳はこ 古墳研究でわかりつつある事実を、 があります。 できたとしたら、「自分の住む町には六世 にまとめてみました。 ての古墳を見学するのはむずかしいもの に気づくでしょう。 とはいえ、実際にすべ 島根県は、出雲」「石見」「隠岐」 もしあなたが県内の古墳をすべて見学 の東側にしかない」など、多くのこと そこでここでは、これまでの <u>ഇ</u>

の地域でさまざまな特色を持っています。 墳時代の文化の内容においても、それぞれ 地域からなりますが、これらの地域は、 古

卑弥呼の鏡」 全国で古墳の築造が始まったころ、 を持つ古墳

り多く見つかっていません。 ることも特徴です。 獣鏡」と呼ばれる大きな鏡を持つものがあ れをおおう「竪穴式石室」を埋葬施設とれている。まにそうしせつ た大型古墳は、長い「割竹形木棺」と、 なわち四世紀の古墳は島根県内ではあま していますが、 副葬品の中に「三角縁神 初期に造られ

います。 各地の豪族に配られたものと考えられて 書『魏志』倭人伝に言う「女王・卑弥呼」 う説があります。 三角縁神獣鏡は、近畿地方の豪族から 中国の魏王朝から与えられたものだと そしてこの鏡は、もとは中国の史 県内では

> 山古墳 (益田市) などで発見されており、 *** (安来市) 八日山1号墳 (松江市) 四塚 (安来市) 八日山1号墳 (松江市) 四塚 墳 (大原郡加茂町) をはじめ、大品な) 墳 (本語) (詳しくは二巻を参照 られ 初三年」(西暦二三九年)という文字が見弥呼が魏に使いを送ったとされる年、「景 このうち神原神社古墳発見のものには、 注目されています。 1号墳(松江市)四塚

各地の王者

四メー 岐郡西郷町) が四八メー が六八メートル 隠岐では平神社古墳(隠 市) が八九メー ル以上、山代二子塚 (松江市)が推定九 では大念寺古墳 (出雲市) が九二メー ある大きな古墳を比較してみると、出雲 映したものと言われています。 県内各地に る人の数、すなわち支配力の大きさを反 古墳の大きさは、その築造に動員でき

世紀に最大の古墳を造り、 か 出雲で六世紀に最大の古墳が造られたの ると規模が縮小する地域が多い中で、 は六世紀のものです。全国的に見ると、五 とされているのに対し、 大元1号墳が四世紀、周布古墳が五世紀 大きな関心を集めています。(図1、 出雲と隠岐の古墳 六世紀にはい

これらの古墳が造られた時代は、石見の トル、石見では大元1号墳 (益田 トル、周布古墳(浜田市) トルとなります。

時 隠 岐 石 見 出 雲 期 東部 内陸部 中 部 東部 西部 西 部 名分丸山 1号 4 前四 四塚山 神原神社 世 奥才13号 造山1号 期紀 ●奥才14号 甲ノ原2号 松本1号 山地 大寺1号 大元1号 寺床1号 大垣大塚1号 斎京谷1号 中五 スクモ塚 毘売塚 宮山1号 世紀 丹花庵 能木原3号 周布 金崎1号 宮山3号 神庭岩船山 】 石屋 古曽志大谷 めんぐろ 八表18号 ▲小丸山 玉若酢命神社 薄井原 世 林43号 仏山 期紀 17 32 美々津丘 平神社 明神 塩津神社 水若酢 終末期(七世紀) 野伏原 穴観2号 片山 地蔵山 空山 飯梨岩舟 岩屋 永久宅後 墳丘 100m 若塚

図1 島根県内のおもな古墳の変遷(推定も含む) 石見の大型古墳は古墳時代前半に多いのに対し、出雲では大型古墳が後半まで続く。また前方後方墳や方墳は、出雲でもとくに東部に多いことがわかる。

前方後円墳」や「前方後方墳」の多い出版

その密度が高い地域と言えます。 現在のところ、前方後円墳が九四基、前方 でトップクラスの力を持った豪族のために造 わけその東部に分布しており、 られた古墳と考えられています。 とくに前方後方墳は、 後方墳が三八基あることがわかっています >に前方後方墳は、三七基が出雲、とりほとんどは出雲部に分布しています。 全国的にも 県内では は とり 全国

子塚 (松江市)を観察し、 初です。その意味で、 の名称発祥の地」と言えるでしょう。 県史編纂委員を務めた野津左馬之助氏が、 九二五年に『島根県史』 また「前方後方墳」という言葉は、 出雲が「前方後方墳 の中で、 名付けたのが最 **此**二 峊根

石棺の多 出雲

全国的にも石棺が多い地域の一つです。 古墳時代の人びともこれらの石材に早くか いった種類が数多く作られており、 ら目をつけ、 買砂岩)や荒島石(浮石凝灰岩)などのよっつきがん あらしまいし ふせきぎょうかいがん 出雲は出 加工しやすい石材に恵まれた所です。 石棺は、 雲灯籠で知られる来待石(凝灰雲灯籠で知られる来待石(凝灰 口棺は、舟形石棺や家形石棺と石棺や石室の用材として利用 出雲は

の大型古墳に採用され、 町) や毘売塚古墳 舟形石棺は神庭岩船山古墳(簸川郡斐川舟形石棺は神庭岩船山古墳(簸川郡斐川 中海の沿岸部に集中しているのが特徴 パされ、その分布は宍道(安来市) など、五世紀

世紀中ごろのものが早く、 まで見られます。 家形石棺は、上島古墳 (平田市) など六 出雲の家形石棺の特徴は、 七世紀前半ごろ

(図4)

に入口の付いたもの(平入り横口式)がほ穴神1号横穴墓(安来市)のように、側面 の平野部に集中しています。(図3) とんどであることで、その分布もやはり出雲

横穴式石室の広がり

でなく、 違いが見られます。 こうした小型古墳の埋葬施設としても発達 築造が許されるようになったと考えられてい したもので、 六世紀になると、支配者である豪族だけ 横穴式石室は、大型古墳はもちろん、 富裕な農民たちにも小さな古墳の その形態は地域によって顕著に

室 で す。 (出雲市) や上塩冶築山古墳(同) など、 おり、 石室は、 大な石室が出現します。 石または切石で造られた全国的に見ても巨 南地方) で大きくその様相が異なります。 ように横口式家形石棺を大型化 のうち東部を中心に盛んに造られた石棺式 出雲では東部と西部、 墳丘に直接埋めるという構造を持って 全国的にも珍しいタイプの横穴式石 また出雲の西部では、 古天神古墳 (松江市) に見られる それに山間部 同) など、割け 大念寺古墳 : 石室化

すが、 穴観2号墳(仁多郡仁多町)石見では片ながた。 代表的なものとしては、雲南でています。 代表的なものとしては、雲南で を持った石室が造られています。 で造られた、平面形が細長い石室が分布 田古墳(邑智郡石見町)などがあげられ 古墳(浜田市)鵜ノ鼻古墳群、 雲南から石見にかけては、 細かく見ると、 各地域でそれぞれ特徴 自然 石・ (益田市) 雲南では

図3 島根における舟形石棺・家形石棺の分布 図2島根県各地で最大の古墳 両者とも出雲の平野部を中心に分布していることがわかる。 古墳の規模では、出雲と石見で 大念寺古墳 山代 極端な差は見られない 二子塚 大元 1 号墳 89m 周布 古墳 68m 平神社 古墳 48m 舟形石棺 東部の家形石棺 西部の家形石棺 隠岐 石見 出雲 図4 島根県各地の横穴式石室 A.片袖式横穴式石室 細長い玄室の片側に羨道 C.石棺式石室 が取りつく形のものが益田 出雲東部を中心に分 布。横口式家形石棺を 地域で見られる。 祖形に独自に発展を遂 げたもの。 B.無袖式横穴式石室 D. 両袖式横穴式石室 出雲西部に集中して分布。割 石見および出雲山間部で見られる。 石で造るもののほかに、切石 で造るものもある。 В

45